

# この地の医療

愛知県 社会医療法人財団せせらぎ会  
東栄町 国民健康保険東栄病院

丹羽 治男

## ① 医療サービスは何の為にあるのか？

人が生きる価値と同じように、医療サービスにもはじめから造り付けの目的があるわけではない。関係する人の数だけ違う意味を持っていると考えたほうがむしろ正しい。いつでも診てもらえれば安心だ。近くで薬がもらえれば便利。できればこの家で死ぬまでいたい。家で死ぬなくともこの地で最期を迎えたい。この自治体では貴重な働き場所。病院建設で町にお金が落ちる。病院をつぶせば次の選挙は厳しい。個人を超えてその地を見渡せば、必ず固有の有機的なつながりを持つ共同体が形成されていることが分かる。その地の医療のしくみが共同体を構成するインフラの一部である以上、その共同

体の目指す将来像に沿い、望ましい将来へ続いていくため最大限に貢献することが求められているはずである。共同体を構成する住民、医療従事者、役場職員、首長のその目標を一致させるための努力、現状は如何に？

## ② その地の人の健康を守っていくためにはどんな医療機関が必要か？

住民は一つには安心を、一つには便利さを、そして医療の質を求める。一般的に一つの医療機関が今の時代の要求にすべて対応できる体制を維持することは非常に困難である。ほどの落とし所を見つけるために、それぞれの自分たちの医療機関と、思う気持ちが必要な役割を果たす。

地方、特に過疎地では医療従事者

の確保は医師に限らずすべての職種で非常に厳しい状態となっている。自治体職員ですら便利な都市部から役場へ通うことが珍しくない時代となった。医療従事者のその地での生活が許容範囲に収まるかどうか、選ぶ側となった医療従事者が働き場所を探す際考慮する大きなポイントの一つとなっている。しかし多くのスタッフが生活の向上など個人の都合を優先し、その地へ貢献する価値を重要視していない医療機関は、共同体そのものから自ら疎外される道を選んでいようなものかもしれない。

自治体の財政力も公立医療機関であれば影響を及ぼしている。それ以上に医療に対する自治体の姿勢がその地の雰囲気を作る目安の一つである。これを各地の医療機関の盛衰が教えてくれる。

## ③ 求める医師像

自治体を探す医師像は、例えば診たてがよい、患者さんの話をよく聞く、職員とうまく付き合える、医療機関の収支をそれなりに考える、長く勤める、給料が安いといったところであろうか。地方の医療機関へ赴任するに当たって医師が望むことは、給料がよい、休みが取れる、やりがいがある、自分の能力が生かせ

る、よい評価が得られるなどで、その地の存続のため自分の能力を最大限発揮することが目的と言える医師は少ない。住民が望む医師は、いつでも診てくれる、診たてがよい、よく話を聞いてくれるなどで、骨を埋めてほしいという住民もいるかもしれない。

## ④ 地域医療の教科書はあるのか？

地域は一人ひとりの性格が違うように、それぞれが固有な歴史、行動パターン、価値観を持っている。どんな優れた医師(医療従事者)であっても、固有の地で自分の能力を発揮するには相当に高い壁をいくつも乗り越える必要がある。赴任した医師がその地で最大限貢献できるようにするために、その地の目標を共有することが第一歩であり、よりよくしていくための定期的な相互評価が必要となる。医師にはなじむ努力、忍耐、教えてもらう姿勢、経営に対する関心が求められ、自治体には受け入れ態勢の整備、住民との橋渡し、その地の「物語」を教える役割があり、さらに医療機関経営向上のための努力も期待したい。住民もその地へ貢献する医師をそだてるために、なじむ努力や時に忍耐も重要となる。